

クリティカルシンキング志向性に対する性格特性および クリティカルシンカーに対するパーソナリティイメージの影響

○矢澤順根・中島健一郎

(広島大学大学院教育学研究科)

問題・目的

クリティカルシンキング (以下 CT) とは、「適切な基準や根拠に基づく、論理的で、偏りのない思考」と定義される (楠見・道田, 2015)。しかし、CT をする人 (クリティカルシンカー) は親しみにくいといったネガティブな印象を抱かれやすい傾向にある (廣岡・小川・元吉, 2000)。クリティカルシンカーに対してネガティブなイメージを持っている場合、それが CT への接近性を低めている可能性が示唆されている (廣岡ら, 2000)。

CT への接近性を高めるためには、その能力の向上よりも、まずは批判的な考え方をしたいという CT 志向性を獲得することが重要であるとされている (廣岡ら, 2000)。CT 志向性はさらに他者の存在を想定した社会的 CT と、他者の存在を想定しない論理的 CT に分類できるとされている (廣岡・元吉・小川・斉藤, 2001)。

本研究では CT 志向性に影響する要因として、クリティカルシンカーに対するイメージに着目し、「CT 志向性はクリティカルシンカーに対するイメージがポジティブな人は高く、ネガティブな人は低い」という仮説を検証した。

方法

調査参加者 大学生 77 名 (平均年齢 19.9 歳, $SD=1.25$) が参加した。分析には回答に不備のなかった 73 名のデータを用いた。

使用尺度 クリティカルシンキング志向性尺度 (廣岡・元吉・小川・斉藤, 2001)、大橋・三輪・平林・長戸 (1973) のパーソナリティ評定尺度のうち、廣岡・小川・元吉 (2000) の研究で使用された 20 項目を使用した。

手続き 質問紙調査で行われた。各学年の授業内に質問紙を配布し、回答を求めた。

クリティカルシンカーに対するイメージについては同じ質問項目を用いて、自分の持つイメージ (自己イメージ) と自分以外の他者が持っていると思われるイメージ (他者イメージ) の 2 通りの回答を求めた。

結果

クリティカルシンカーのパーソナリティイメージの自己イメージと他者イメージのそれぞれについて探索的因子分析を行い、 α 係数を算出した。いずれについても許容される水準の係数であることが確認された。具体的には、自己イメ

ージについて親しみやすさ ($\alpha=.84$)、積極性 ($\alpha=.81$)、他者イメージについて親しみやすさ ($\alpha=.88$)、積極性 ($\alpha=.77$)、誠実性 ($\alpha=.81$) であり、親しみやすさと積極性については両イメージにおいて類似の因子が抽出された。

クリティカルシンカーに対するイメージが CT 志向性に与える影響を検討するため、説明変数を各パーソナリティイメージの尺度得点、目的変数を各 CT 志向性の平均値とした重回帰分析を行った。しかし、いずれのパーソナリティイメージの下位因子においても有意な標準化偏回帰係数は認められなかった。

次に、各 CT 志向性を目的変数、親しみやすさ (自己)、親しみやすさ (他者)、親しみやすさ (自己) $\times$ 親しみやすさ (他者) の交互作用項を説明変数とした階層的重回帰分析を行った。しかし、親しみやすさ (自己) や親しみやすさ (他者) の主効果および親しみやすさ (自己) $\times$ 親しみやすさ (他者) の交互作用はいずれも有意ではなかった。また、各 CT 志向性を目的変数、積極性 (自己)、積極性 (他者)、積極性 (自己) $\times$ 積極性 (他者) の交互作用項を説明変数とした階層的重回帰分析においても、同様にいずれも有意ではなかった。

なお、性格特性と他者イメージが CT 志向性に交互作用を持つかどうか探索的に検討したが、有意な効果は認められなかった。

考察

クリティカルシンカーに対するイメージについて、自己イメージと他者イメージは両方ともに CT 志向性の直接的な影響要因にはならない可能性が示唆された。つまり、批判的に考えたいまたは考えたくないと思う理由は、自分や他者がクリティカルシンカーに対して何らかのイメージがあるからということではないと考えられる。また、CT 志向性は「批判的に考えたいかどうか」という個人内の思考であり、批判的に考えた事柄を必ずしも周囲に表明するとは限らないために、クリティカルシンカーに対するイメージは影響を及ぼさなかったと考えられる。今後の課題として、批判的に考え、さらにそれを周囲に表出するかどうかの判断という CT の発揮判断との関係も検討することが必要とされる。